

ガッチリ花蕾のブロッコリーづくり

栽培のポイント

●栽培条件にあった品種で作付時期を決めよう！
ブロッコリーの花の基は、一定の葉数になり、かつ一定期間低温に遭うことにより促されます。よって、条件に合った低温に遭える時期に作付けをしなければなりません。

●定植直後まで温度管理に注意！
夏まきは高温期の管理になります。徒長や葉焼け予防のため、リン酸(MリンPK)で丈夫な葉を作しましょう。それでも徒長する場合は、Pフォスタの葉面散布で速効性のリン酸水を葉から吸収させましょう。

●初期から高栄養に保って品質向上！
花蕾を作るまでは、葉数が多いほうが花蕾の肥大が良くなります。品質向上のポイントは、花蕾ができる時期からチッ素とリン酸の両方が効いた状態を保つこと。そのためにチッ素は安定した肥効のバクヤーゼKや新ぼかし大将などのボカシ肥で常に効いた状態にして、リン酸は速効性のあるMリンPKの小まめな追肥で調整しましょう。



夏まきブロッコリーの施肥提案 (1 a = 30 坪)

資材名	元肥	追肥① (定植 15 日後)	追肥② (頂花蕾の出来始め)
苦土入りMリンPK	3 kg	—	1 kg
バクヤーゼK	60 kg	—	30 kg
NK化成	2 ~ 3 kg	3 ~ 4 kg	—

追肥と同時に土寄せをして株を安定させる

肥料切れ：リーフアップ N 500 倍
窒素過多：Pフォスタ 500 倍

ネコブ病対策

ネコブ病菌が繁殖しにくい土壌環境を作ることが第一です。そのために基本に基づいた土づくりが必要。

【対策例】

- ① 緑肥を栽培する(ソルゴー、えん麦類)
- ② 緑肥すき込みの際、10 a 当たり 2 t 以上堆肥とバクヤーゼ K 10~15 袋、Mイーシー 1 袋、米ヌカ 60kg を投入。
- ③ 全面耕起する。次の作付まで 30 日以上あける。

